

循環ループ縮小化工事の 対応状況について

東京電力株式会社
平成26年12月25日

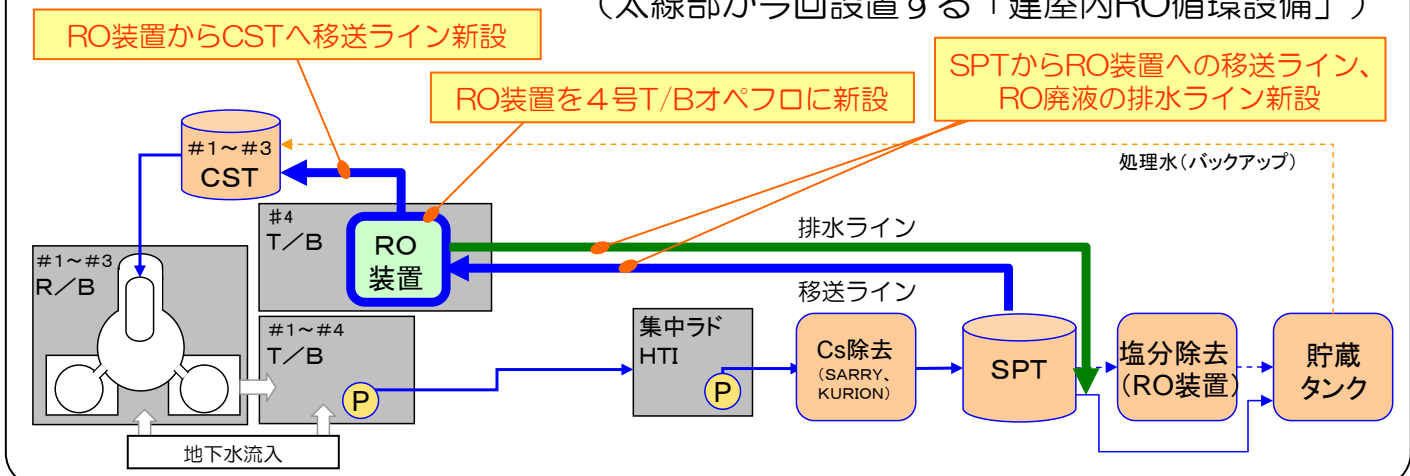
1. 循環ループ縮小化工事について

■概要

- 汚染水の移送、水処理、炉注を行う循環ループの内、塩分除去（RO）装置を4号タービン建屋に設置し、循環ループの縮小による屋外移送配管の漏えいリスク低減等を行うもの。（これに伴い設置する設備を「建屋内RO循環設備」と呼ぶ）。
- 当該取組により、循環ループ（屋外移送配管）は約3kmから約0.8kmに縮小され、高台エリア（35m盤）の経路が不要となる（滞留水移送ラインを含めると約2.1km）。

【循環ループ縮小 全体イメージ】

（太線部が今回設置する「建屋内RO循環設備」）



2. 位置付け及び他の取組との関連性について

■位置付け

- ロードマップ記載の建屋内循環ループの構築に向けた作業と位置付け、2014年度末までの設置、運転開始を目標に取り組みむことを公表（2013年11月廃炉推進会議にて説明済）
- 当該取組が完了するまでは、既設の水処理設備等で運用を継続（他の廃炉作業、汚染水対策等への影響なし）。

■他の取組との関連性

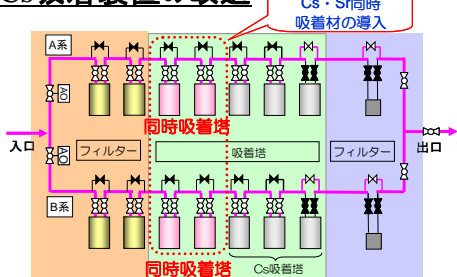
- Cs吸着装置の改造により、年内にSr同時吸着塔を導入予定であり、Cs吸着装置以降の放射能インベントリが低減可能となる見込み。

➡循環ループ縮小化の範囲（Cs吸着装置以降）の汚染水漏えいリスクの低減が可能。

- 2014年度～2015年度上期での対応を目標とした対応（汚染水処理、凍土遮水壁設置等）が多く、関連工事（高性能多核種除去設備設置工事、建屋内滞留水移送設備設置工事等）と現場作業や設計・製作工程での輻轡が発生。また、作業干渉による作業安全上の問題等も懸念あり。

➡廃炉作業全体のバランスを考慮し、各取組を着実に進めることが必要。

Cs吸着装置の改造



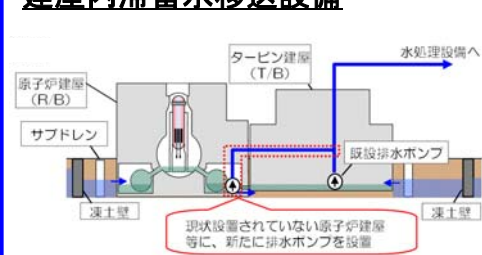
2014年12月下旬より運用開始予定

高性能多核種除去設備



2014年10月処理開始

建屋内滞留水移送設備

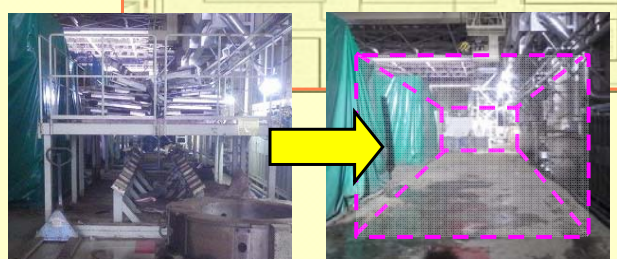
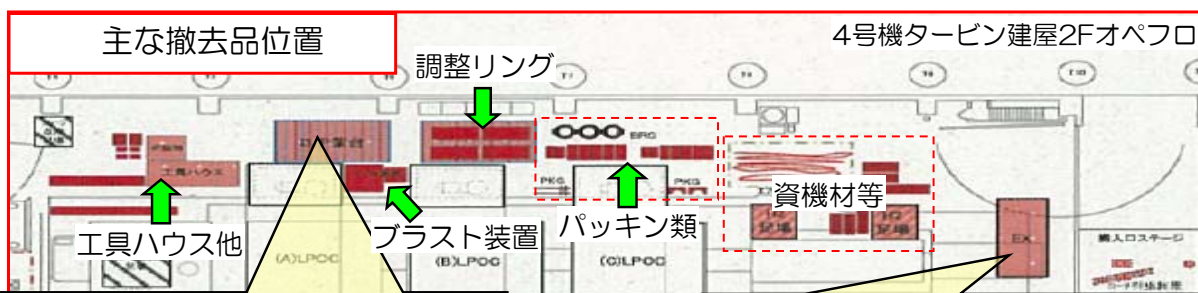


2014年度中に設置予定

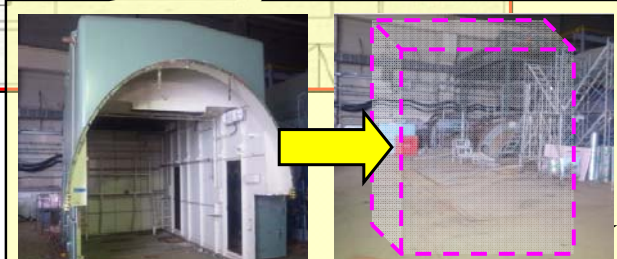
3. 当該取組の対応状況について

■対応状況

- 2014年7月に実施計画変更申請実施。以降、2回の補正申請を行い、現在審査中。
- 2014年8月より建屋内RO循環設備を設置する4号タービン建屋オペフロ等の干渉物撤去作業を実施中。
- 2014年11月より屋外配管ルート of 整地作業を実施中。
- 実施計画変更申請の認可状況に応じ、本格的な機器等の設置を実施予定。



ダイヤフラム架台（定検時の部品仮置き台）



エキサイターカバー（励磁機の保護カバー）

